

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070402138		
法人名	有限会社 笑和		
事業所名	グループホーム笑和		
所在地	福岡県北九州市小倉北区泉台2-7-19 (電話) 093-651-5965		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 3 日	評価結果確定日	令和 4 年 3 月 8 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「和やかな笑いのある、みんなの家」を求め地域の中で、自分らしく穏やかに毎日を過ごせるようにしています。ご利用者様の生活もそれぞれのペースでゆったりとした束縛のない毎日を皆さんと楽しく過ごせるように務めています。また、利用者同士が仲良く明るく笑顔で笑いある日々であるように、その日その時に出来る支援を大切にし、誠実に真摯に柔軟な対応に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 4 年 1 月 19 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、高台にある住宅街の一角に位置している。車で5分程で大通りに出ることができ、通り沿いには商業施設や様々な店がある生活利便性の高い地域である。  
「自分らしく穏やかに毎日を過ごしてもらう」ことを職員間で共有し、一人ひとりが自由に、個々のリズムとペースで生活できるように支援することを心がけている。  
寝たきりや、閉じこもりになることを予防するために、個々の利用者に合わせて脳トレ、パズル、塗り絵等のメニューを用意し、日中はリビングで楽しく過ごしていただく取り組みを行っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員と訪問者の目に入る玄関とリビング内の掲示板に理念を掲げ、日々の介護をその理念に照らし合わせつつ共有実践に努めている。	地域密着型の視点がある理念があり、フロアや事務所内、休憩室内など職員の目につきやすい場所に掲示している。管理者は理念の実践に向け、研修等の皆が集まる際や、日々の業務の中で折に触れて話をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍の為中止となっているが、ヨガ体操、歌謡ショー等のボランティアの訪問や近隣で開催されるふれあい市場への参加。また、イベント時には近隣の住民の方々をお誘いしている。	町内会に加入しており、コロナ禍以前は、地域の公民館で開催されていた「ふれあい市場」に年3～4回参加していた。また、地域の餅つきや近隣小学校の運動会を見学するなど、地域に出向いて活動する機会があった。地域活動が可能となれば、再び再開の予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や地域の方々と交流する場を設け、認知症の理解や支援方法を実践している。また、相談等にも対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月一回運営推進会議を開催し、利用者の状況報告、施設の問題等を話し合い、参加者からのご意見やアドバイスを参考にしサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、地域の民生委員や町内会長が参加していた。会議では、事業所の報告や行事の案内を行っていたが、コロナ禍の現在は、書面にて構成員に報告を行っている。書面での報告に対して、地域包括支援センターから返事があるなど、一方的な報告にならないようにし、集まった意見をサービス向上のため取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談などは市の介護保険課に報告連絡をおこない回答を得ている。運営推進会議に出席される地区民生委員、包括センターの職員に事業所の取り組みや現状を伝え、協力関係を維持できるように努めている。	日々の運営に関して、市や区の介護保険課へ相談している。電話で相談することが多い。部屋が空床となった際は市へ報告し、市のHPに空床情報を公開している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に拘束廃止会議を開催し、職員に周知しています。また、玄関は常に開放しており、利用者様がいつでも自由に出入りできるようにしている。玄関への出入り口にはセンサーを用い事故につながるリスクを減らし、拘束をしないケアに心がけている。	玄関は日中に施錠をしておらず、外出傾向にある利用者に対しては、センサーを活用し、職員が見守りをしっかりと行うことで対応している。事業所内で身体拘束に該当する行為を行うことはない。身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	介護施設や介護関連の報道等にも留意し、施設内研修会で高齢者の虐待防止について学び、日常の業務の中でお互いに意見を出し合い気を付けるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度については、入居時に説明を行っている。内部研修等で制度については学んでいるが、現実には利用に至っていない。	成年後見制度については、利用開始時に家族に対して制度の説明をしている。また、権利擁護に関する制度については、コロナ禍のため集合研修は行っていないが、研修資料を閲覧する方法で学習機会を設けている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書を渡し、内容を把握して頂いたうえで、利用者や家族等の不安・疑問点を尋ね、十分に話し合い、理解と納得を図っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議、また、入居者様には日々の会話の中で意向や要望を聞き、ご家族様にはその都度ご意見、ご要望等伺っている。	利用者からは、食べ物や飲み物に対して要望があり、職員が買い物に行っている。コロナ禍で面会を中止しているため、家族から「顔が見たい」と要望があった際は、テレビ電話や窓越しの面会を実施する等、意思や要望を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を行っている。また、日々の申し送りなどで、職員がご意見や提案など日常的に言い易い環境を作りその都度、相談をして検討し反映させるように努めている。	管理者は新しく入職した職員に対しては、6か月に1度面談を行っている。他の職員からは随時、意見や要望を聞くようにしている。職員から要望で、利用者の足の浮腫予防のため、オットマン（足置き）を導入した事例がある。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や実績、年功等を鑑み、適切な評価を心掛けている。働きやすいよう個々の事情や条件を聞き入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用については年齢、性別の制限は特にならない。 職員の能力が発揮出来るようコミュニケーションを図り働きやすい環境作りに努めている。	事業所には30代から70代の職員が働いている。定年は設定しているが、体調がよく意欲があれば継続して働くことが可能である。採用については、年齢や性別を理由に採用対象から排除するようなことはない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に人権の尊重を謳っており、日常的に入居者様と良好な関係を築くことを心掛けている。	人権については、コロナ禍のため集合研修は行っていないが、研修資料を閲覧する方法で学習機会を設けている。身体拘束委員会の実施時に「人権」について管理者より話を行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一定の職員以外の外部研修は現状出来ないが、新人職員には経験豊富な職員が指導し、実務を通して学んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	幣グループ内での意見、情報交換など定期的に行い、研修などで知り合った他施設の職員等とも情報交換等行っている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族から出来るだけ多くの事情、情報を伺い、入居後もご本人の不安や要望等を傾聴し誠実丁寧な対応と説明をすることで、安心して信頼して頂ける関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談時より困っていることや不安、要望を伺い、ご家族が望む生活が出来るよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が必要としている支援または、現在の状況を把握しホームでの生活の中で何を一番望んでいるかを伺い、実践に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が「できること」「できないこと」を把握し、相手の思いを理解し共に関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時に日々の本人の状態を説明特記事項があれば家族の方に報告している。 イベント時は、その時の写真と共にお便りを出して家族ともに本人を支えていく関係作りを行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の方との面会の場を作り交流する機会が持てるよう支援している。コロナ禍の中で現在は外出はしていない。	もともと買い物をしてきた馴染みのスーパーに職員と一緒に出かけることがある。友人との関係の継続については、現在は訪問や来所が困難なため、電話で行っている。家族の支援で外出し、正月を実家で過ごすこともあった。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はみんなで居間で過ごして頂くように促している。利用者様の性格や相性を把握し、レクリエーション等を通じ利用者同士がコミュニケーションや交流の場を作り関係が円滑になるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会に伺ったり相手の方から相談等があれば必要な情報を提供共有や連携に努めている。 ご家族からのご連絡やご相談などもある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の悩みや要望など毎日のコミュニケーションを取る中で把握出来るように努めている。 困難な場合はご家族に相談する。	趣味などを本人、家族から聞き取り、可能な限り希望に添うにしている。また、ご自身で訴えることの出来ない方もいる為、表情、言動、行動を細かく見ながら、その方の意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴を聞き取り、コミュニケーションを取る中で情報収集をし把握に努め、ホームの生活の中に少しでも取り入れられるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や過ごし方を記録し申し送りすることで変化や発見等を職員間で情報共有し現状把握、それぞれにあった生活が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの情報や意向を取り入れ定期的に見直しをしている。また、状態等の変化によって適宜介護計画の変更している。その際はご家族、主治医のご意見も反映できるように努めている。	全職員の意見を聞いて、利用者や家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。介護計画は本人または家族に説明し、6ヶ月に1回又は、状態の変化に応じて見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、グループLINE、ヒヤリハット等で広く情報を共有し介護計画の見直し、実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のその時の状況に応じ、必要な支援が出来るよう努めている。 また、ニーズを発信できない利用者様は、詳細な状態観察をし、ご本人にとって一番良い状況になるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為中止となっていることもあるが、各々の地域資源を把握し、利用できるように配慮している。 また、ボランティア（歌、ヨガ）の方々にも協力を得て、楽しんでいただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回かかりつけ医による往診があり、その際に個々の状態を報告している。 また、かかりつけ医についてはご本人、ご家族様の希望に沿うように努めている。	入居される以前からのかかりつけ医を希望される利用者については、家族の付き添いで受診している。家族が受診の付き添いをした時は、送ってもらった時に医師からの指示を聞き取っている。事業所には内科医が週1回往診に来ている。また、24時間体制で相談できる診療所と協力体制がある。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は看護職員との関係を日々密にして情報共有している。 また、訪問看護ステーションと連携し、ご利用者様の健康状態の報告、相談、リハビリ等日々の健康に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご利用者様が適切な医療、看護を受けられるよう必要適切な情報提供に努めている。 また、面会に伺ったり、ご家族様と綿密に連絡を取りご本人の状況を把握するように努めている。 長期入院となった際はその後の相談にも対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期、看取りについての話し合いや説明をして事前に確認を行い書面化し同意を得ている。また、家族や主治医や看護と共有し、方針を図って支援している。	重度化や終末期についての対応方針がマニュアル化し、本人や家族に対して、入居時や必要時に説明している。看取り期の受入れ実績もあり、看取り期に入る前、入った後に定期的に家族と相談しながら、介護支援を見直している。職員は本人の状態の変化や、計画の見直し内容については、毎日の申し送り時に共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当の訓練は行っていないが、緊急対応マニュアルにて学び初期対応や事故発生時に備えている。 緊急の際は救急車を要請することを基本としている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。定期に防災マニュアルや防災ビデオなどで学んでいる。職員の緊急連絡網を作成しており、非常時の体制は整っている。また、運営推進会議を通じて町内会長や地域との協力体制を気づいている。	避難訓練は、昼間想定と夜間想定で年2回実施している。地域の住民にも声掛けは行っている。非常用備蓄に関しては、3日分用意されており、職員にも周知できている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体面の羞恥心の配慮だけでなく、ご利用者の個人情報や権利、人権を常に意識して適切な言葉遣いと対応に努めている。	人格の尊重、プライバシーの保護については、利用者の気持ちを尊重するように、ミーティング時に話しをして、日頃から職員に意識するように指導している。職員間でも、部屋のドアは閉める等、お互いに気を付けるように話し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の思いを発信できるような環境作りや言葉掛け、人間関係作りをし最初から否定しないように努めている。自己決定が困難な方には言動からニーズを讀取り意に沿うように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床や就寝時間等を一人一人のペースに合わせている。一日の流れや時間の使用方法も一人一人のペースを最大限に尊重し寛いで居心地よく生活出来るように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好み、これまでの習慣等ご自身の希望通りのおしゃれを楽しんでいただいている。認知度の高い利用者様には、清潔を心がけ、季節や場所に適した衣類等のアドバイスをしておしゃれを楽しんでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の昼食と夕食は職員が調理を実践している。食事後の食器拭き等利用者様の能力に合わせてお手伝いをしていただいている。昼食は職員と共に会話を楽しみながら食べている。	コロナ禍以前は、お皿を拭いてもらったりと片付けを手伝ってもらっていた。現在は感染予防のため見合わせている。日曜日は、職員の手作りで、利用者の喜ばれる麺類やカレーライスを提供している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を都度把握し記録している。 個々の状態に応じて形態や量を変え、必要に応じて食事介助を行い安全に食事が出来るように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。 必要であれば指導や介助をし、歯磨き後のチェックを実施している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、排泄の失敗が無いように定時と随時声掛けや誘導を実践している。	排泄チェック表により、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導やパッド交換を行っている。昼間はトイレで排泄してもらうようにしている。一人で行くことができない方には、周囲に気付かれないように配慮しながら誘導している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで状況を把握し、看護師、主治医と連携を取り個々に合った排便コントロールを行っている。 また、便秘予防の為に毎日適度な運動（体操や歩行訓練）を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	職員の配置状態にて入浴は週に2回実施している。午前から午後にかけて行っている。強制はせず、入浴剤を使用して湯の温度や時間など好みに合わせてゆっくり楽しんでもらえるよう努めている。	週2回、曜日を決めての入浴日がある。決められた日に入浴できなかった時や便などで汚れた時は、清拭やシャワー浴で対応している。楽しんで入浴してもらえるように、毎回、入浴剤を使う等工夫している。	職員の都合で入浴日や回数を決めず、利用者の希望に合わせた入浴支援を行うことができるよう検討してほしい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子使用者や体力が乏しい利用者様はベッドやソファ等で休息する時間を確保するようにしている。 日中に活動の場を多く提供し、夜間安眠の生活リズムが整うよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容が分かりやすいようにファイルしており、間違いなく服薬できるように与薬のチェックを職員2名以上で行っている。 臨時薬は、直接口頭で伝えるとともに、グループLINEや連絡帳を使用し、職員全員が確認出来るように努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じた役割を家事や活動の場で持って頂き自己有用感、楽しみを持てるよう支援している。塗り絵やパズルやゲームなどその人に合わせた楽しみごとを提供している。また、好きな方には食器拭きや洗濯物たたみ等家事全般のお手伝いも実践している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ禍の為中止となっているが、幣ホームから外食・遠足・散歩・初詣・ふれあい市場・買い物付き添い等、定期的に外出を実施している。 個人的な買い物等、希望があれば外出できるよう努めている。	コロナ禍以前は、季節に合わせたドライブ、ファミレスへの外食や、ピクニックなど行っていた。また、本人が希望される物を近所のスーパーに職員と一緒に買って、食料品や衣料品を買い物していた。しかし、今はコロナ禍で外出制限をしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物を行った際は本人の希望や力に応じ本人が支払えるよう援助をしている。個々の金銭は、所持はしていないが、いつでも好きに使えるようにはしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話は必ずご本人に取り次ぎ、ご本人からの希望があれば、いつでも電話を使用できるようにしてご利用者様の交流関係が継続できるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関・廊下・居室等に季節に合わせた飾りなどしている。 また、毎日清掃し必要に応じて遮光したり、室温や湿度の調整、換気を行い快適に過ごして頂けるよう努めている。	共有スペースには、絵が多く飾っていたり、小物を飾っていたりと雰囲気の良い空間になっている。また、季節に合わせた掲示物を飾り、季節を感じられるようにしている。非常口の日当たりの良い場所に、椅子を置いて、一人になりたい時にゆっくりできる場所もある。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビングなど各々が思い思いに居場所を見つけくつろいで過ごせるよう配慮し、状況に応じて座る場所を誘導し、皆さんが落ち着いて過ごせるよう気配りをしている。 ソファやテーブルで談笑する場面も多い。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人と相談し、馴染みや思い入れのある家具や物を置きその人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室づくりをしている。 また、希望により新たに好みのものを導入するときもある。	居室には、洋室と和室があり、本当の自分の部屋のような造りになっている。家具は持ち込み制限がなく、仏壇を持ってきている方もいて、個性のある居室になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解しやすいように貼紙を利用したり、転倒の原因となるような設置物を出来る限り排除し、環境整備にも気を付けながら、出来る限り自立した生活が安全に送れるよう工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関及び事務所、休憩室に掲示し、いつでも眼に入るよう全職員と共有意識に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ヨガ体操、歌謡ショー等のボランティアの訪問、近隣で開催されるふれあい市場への参加を実施。現在はコロナ禍のため中断している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議事録において、電話やFAXにて、こちらから助言や提案をさせてもらうこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議議事録で事業所の現状や情報を報告し、電話やFAX等で参加者の方からの意見やアドバイスを参考に次のステップに活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席される地域包括センターの職員や地域担当の民生委員の方へ、電話にて連絡をとり事業所の取り組みや現状を伝え、協力関係を維持できるように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束委員会に参加して定期的に学んでいる。常時出入口は解放し、出入りは自由に行っている。センサーでリスクを管理し、拘束のないケアに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修会で高齢者虐待について定期的に学び、日常の業務の中でお互いが気を付けるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で権利擁護に関する制度について学んでいるが、現状は利用するまでに至っていない。手続き等、ご本人では困難な場合などには同行して支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を十分に説明し理解と納得をいただいた上での締結を基本としている。法の改正などにより契約内容に変更が生じる場合は関係書類を送付し、説明や解説によって不安や疑問の解消に努め家族の同意をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回の介護相談員の訪問を利用して利用者の意見や要望の解決に努めている。また苦情箱を設置し直接伝えづらい家族の意見や要望の収集に努め、家族との面会時などに個別の要望や不安への対応に活用している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中でいつでも職員の意見や提案を聞き、企画や提案にまとめ現場のより良い環境作りに努めている。職員共有のSNSも意見等を相互に出し合えるより良い環境作りの一環のひとつ。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や実績、年功等を鑑み、適切な評価を心掛けている。働きやすいよう個々の事情や条件聞き入れて勤務シフトを作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用については年齢、性別の制限は特にならない。 職員個々の特性を活かし能力が発揮出来る環境を提供し活躍を促している。また働きやすく楽しい職場を目的としている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営理念に「人権の尊重」を謳っており、日常的に利用者と良好な関係を築くことを心掛けている。また選挙投票希望者には同行して選挙投票を支援している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はそれぞれの個々の職員の経験や技術力を把握している。また、研修などにも積極的に参加できるようにしている。日々の業務でのスキルを磨いてもらうように取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所のグループ内での研修や交流を通じてサービス向上に努めている。また、SNSなどを使い意見交換をおこなって取り組みを強化している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの多くの情報を聴き本人の生活や既往歴や現状の身体状態を観察しながら心身のコミュニケーションを図り信頼関係を築くように取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の介護に対しての悩みやご本人の情報を聴きご家族の要望に応えられる生活をご本人にさせていただくように努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が何を一番望んでいるのかを把握し分析し、必要としているサービスを見極め柔軟に対応し支援に取り組んでいる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることには手を出さず、出来ない事に関して介護支援をするよにしている。また、出来ることについては、継続してもらい、出来ないことは、本人に無理のないように、実践してみるように心掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状はコロナ禍で実施できてないが、普段はご家族に、面会や外出など接点をもたれるように対応している。また季節行事やイベントなどにお誘いし親密関係を維持していただくように、努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本外出はご家族と一緒にであれば問題なく馴染みの好きな場所へ行けるようにしている。また、友人や知人の電話連絡なども対応して支援に取り組んでいる。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲良しの方同士を把握し体調に配慮しながら楽しくコミュニケーションが図れるように対応している。また、全体の利用者の公平、平等に気を付けて支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に相談窓口について伝え、今後の本人に対する介護相談やご家族の相談を受け付ける事を声掛けしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から、本人の要望を細かく聴き意向を把握している。そのなかで家族等と良く相談してご本人の希望に添うように努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に全職員が一人ひとりの生活歴や暮らし方や生活環境を把握している。介護計画に乗っ取り、定期的なモニタリングを職員間でおこなっている。サービス利用の内容の変更等にも柔軟に対応している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースに合わせて自由な過ごし方を日々してもらっている。無理のないようにその日の体調に合わせて心身状態を把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護士、看護師、本人、家族、主治医の意見交換を行い、良く話し合い利用者の現状に適した介護計画を作成している。また、日々それぞれの方と連携を深め計画に反映している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日に個々に起きた出来事や気をつけるべきことを書面にて記録してその後の注意喚起や介護計画などに反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や医療連携など利用者のご家族の希望にできるだけ添うように柔軟な対応をしている。また、新しいニーズにも出来る限りの支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中で中々外出等も出来ず支援不足ではあるが、今後も地域行事や運動会などの参加を積極的にすすめて行きたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科かかりつけ医が施設内で定期的な訪問診療にあってくれている。その他の病気に関しては、主治医とご家族と相談しながら適切な医療を受けられる病院と連携をとっている。（救急搬送も対応）		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護が来所し、個々に適切な看護支援を受けられている。また、介護職員は、常に看護職員と連携を図り、利用者の体調の変化など細かな連絡や相談などをおこなっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関側に迅速に情報提供を行い安心して治療がすすむようにしている。また、情報共有、相談を行い早期に退院できるように努めている。また、医療連携室などを訪問し関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院と家族と充分に相談、検討し看取り介護の方が1名おられる。主治医、訪問看護、介護職員と連携を密に共有し、終末期に向けた支援をおこない対応している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対しては、主治医の意見、指示のもと、救急搬送などの対応を行っている。救急処置の訓練は実施出来ていないが、救急マニュアルにて想定問答を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を半年に1回おこなって、（昼間対応・夜間対応）災害対策はとられている。地域の町内会長に声を掛け避難訓練の参加を依頼している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護と本人のプライバシーの確保に努め、個々の人格やプライドを尊重して日々丁寧な声掛けや対応に心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望や要望を支持し、ご本人が満足いくように対応している。こちらで答えをだすのではなく、自己判断できる方は自身の考えや意向を聴き判断して支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も本人の自由を優先して職員の都合に強制することなく、ゆったりとした毎日が過ごせるように支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の趣味に合わせて身だしなみを楽しんでもらっている。制限するようなことはなく自由におしゃれが出来るように声掛け支援をおこなっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前に口腔体操をおこない食事が美味しく楽しく食べれるようにしている。また、誤嚥性肺炎などの予防につながっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の少ない方には、栄養補助飲料や栄養ゼリーまたは栄養ムースなどで不足分を補っている。また、水分補給はテーブルの目の前にペットボトル（500ml）を置き個々に水分をとってもらって量を把握している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔ケアを行い清潔を保っている。義歯も洗浄を行い汚れや臭いを防いでいる。また、自力でできる方は、自分のペースで見守りながら実施している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日勤帯、夜間帯は定期的なトイレ誘導や声掛けによる習慣を活かしている。自分でトイレに行く方は、その都度、排泄確認をおこなっている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防や対応については、毎日観察をおこない個々に応じて服薬を使うなどして対応している。歩行訓練を毎日おこない運動に心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	職員も少なく週二回という入浴日が決まっており、現状一人一人の希望には答えられていない状況である。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からは自由にお昼寝や休憩がとれるように配慮している。夜間帯の個々それぞれのペースに合わせて、安眠を取ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬を管理し理解している。服薬提供は正確に確実におこない、最後まで飲み込みをチェックしている。服薬後は症状の変化に気を付けている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり趣味、思考が違う為、体操が好きな方は、体操のリーダーになってもらい、歌が好きな方には音楽を、ぬり絵が好きな方には色鉛筆を、個々に合った物を準備し楽しい時間を一人ひとりが過ごせるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出企画があり季節感を感じられるよう色々な場所に行き安全に実施している。また、買い物好きな方は、一緒に同行し楽しんでもらっている。コロナウイルス感染症のため現在は外出を禁止している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては、おこなえていないが、自分の買いたい物や食べたい物などは、職員が相談にのりその都度、希望に答えている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙がご家族から届いた際には、職員が朗読してご本人に聞いてもらっている。電話は定期的に声掛けをおこないご家族の声を聴けるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快な刺激などがないように清潔感に努めている。リビング・廊下・居室は季節感を出し落ち着いた空間を目指している。また、日中は陽当たりが良いように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを2つ置き休憩しながら仲良く会話ができるようにしている。また、一人になりたい時には廊下の陽当りのある所に椅子を設置し、落ち着く場所をつくっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分自身の昔からの私物を使用してもらっている。飾り付けなども本人の好みに工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはベッドやタンスを置き手が届くような工夫をして安全で自立した空間を作っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない